第１回
建築での蓄熱利用を考えるシンポジウムご案内

参加費無料
「事前登録制」

断熱の次は蓄熱？

建築の断熱化は寒冷地を中心に標準となってきていますが、それにともなって日射取得時におけるオーバーヒートなどが発生しており、室温安定および暖房負荷の確実な削減が求められています。本シンポジウムは「断熱の次は蓄熱？」をテーマに、建築の省エネと快適性の次のステージを議論します。ふるってご参加ください。

日　時　2013年10月21日（月）13：00～17：00

集合場所　東京大学工学部1号館15号講義室ホワイエ（裏面参照）
http://maelab.arch.t.u-tokyo.ac.jp/japanese/access.html
※希望される方は実験施設の見学を12時から実施しますので、午前11時50分までに1号館南側入口にお集まりください。

事前登録　以下のアドレスに、メールタイトル「蓄熱シンポジウム参加」でお送りください。
E-Mail：info@maelab.arch.t.u-tokyo.ac.jp
（最新の情報は以下のURLに逐次アップしてお知らせします。）
http://maelab.arch.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

＜シンポジウム：講演概要＞

■住宅における蓄熱利用の歴史と課題

小玉　祐一郎（神戸芸術工科大学　環境・建築デザイン学科教授）

太陽熱を開口部から取り入れ躯体で蓄熱するダイレクトゲインは、シンプルながら効果的な省エネ手法として期待されています。その黎明期からの経験より、今までの経緯と成果、今後の課題をお話します。

■改正省エネ基準における住宅の断熱・蓄熱に関する扱い

三浦　尚志（国土交通省国土技術政策総合研究所）

昨年12月の低炭素認定につづき10月には改正省エネ基準の施行が予定されるなど、１次エネルギーによる省エネ性能評価が広がっています。新しい基準における暖冷房、特に断熱・蓄熱に関してお話します。

■夏季と冬季の両方に最適化された開口部の可能性について

木下　泰斗（日本板硝子株式会社）

ガラスは日射遮蔽性能が重視される傾向がありますが、冬の日射を上手に取り込めば暖房負荷の削減につながります。最新の研究事例より、高性能ガラスを活かした夏冬それぞれに最適な開口部について考えます。

■無暖房住宅を目指した集熱・蓄熱の可能性

前　真之（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻）

断熱を強化すれば暖房の消費エネルギーは減らせますが、ゼロに近づけるためには日射熱の取得と蓄熱が有効です。屋上試験装置や人工太陽・実住宅でトライしてきた潜熱蓄熱体を中心とした無暖房住宅の姿を考えます。

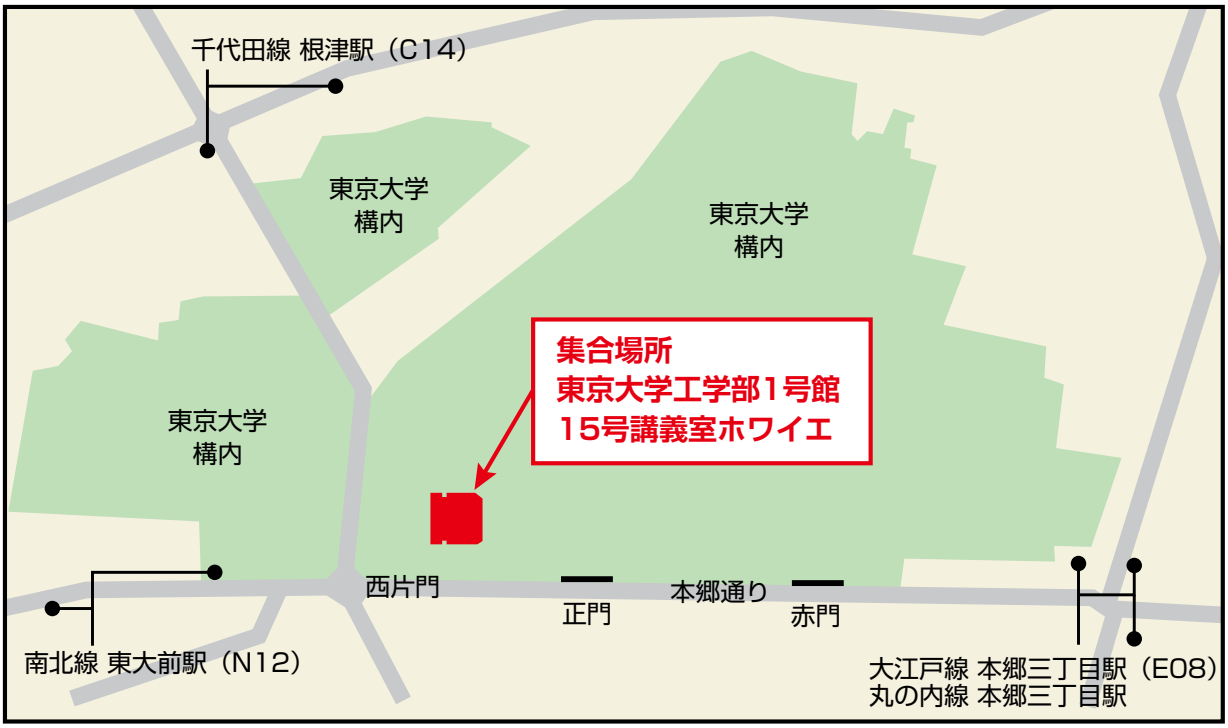
＜シンポジウム・スケジュール＞

12：00～13：00	東京大学実験設備見学（希望される方のみ）
13：00～13：10	会場受付
13：10～13：15	開会の挨拶
13：15～14：00	小玉祐一郎（神戸芸術工科大学　環境・建築デザイン学科教授） **住宅における蓄熱利用の歴史と課題**
14：00～14：45	三浦尚志（国土交通省国土技術政策総合研究所） **改正省エネ基準における住宅の断熱・蓄熱に関する扱い**
14：45～15：00	休憩
15：00～15：30	木下泰斗（日本板硝子株式会社） **夏季と冬季の両方に最適化された開口部の可能性について**
15：30～16：00	前　真之（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻） **無暖房住宅を目指した集熱・蓄熱の可能性**
16：00～16：55	**パネルディスカッション「徹底討論　断熱・蓄熱」**
16：55～17：00	閉会の挨拶
17：15～	懇親会（希望される方のみ：有料）

＜地図＞

集合場所：東京大学工学部１号館１５号講義室ホワイエ

東京都文京区本郷7-3-1



●東大前（南北線）・・・徒歩５分　●本郷三丁目（丸の内線）・・・徒歩１２分　●根津（千代田線）・・・徒歩１０分

＜お問い合わせ先＞

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻　前真之研究室

Tel：03-5841-6208　E-Mail：info@maelab.arch.t.u-tokyo.ac.jp